

東京國際軍事裁判所

亞米利加合衆國 其他

對

荒木貞夫 其他

宣稱供述書

供述者 鈴木貞次

自分機我國ニ行ハル方式ニ從ヒ先ヅ別紙ノ添リ宣稱ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス

一私ハ明治二十年五月七日本籍地静岡縣磐田郡十京村下本郷一七九番地ニ生レ現ニ静岡市北安東町七一番地ニ住テホリマヌ

ニ私ノ經歷ノ大要ハ左ノ通りデアリマヌ

明治四十三年陸軍士官學校卒業

昭和十四年陸軍少將

昭和十七年陸軍中將

昭和十七年八月第四百師團長廣東第二十三軍隸下

昭和二十年第四百三十三師團長内地歸還終戦ニ至ル

三私ハ昭和十七年八月カラ昭和二十年三月マデ第四百師團長デアリマシタ

シタ

昭和十九年六月下旬第四百師團ハ柳州飛行場占領ノ命令ヲ受ケマシタ、私ハ軍ノ行動ヲ秘匿スル為先頭隊ヲ廣東地方遠江河畔ニ向ツテ

進行サセ次テ反轉シテ梧州ニ向ハセマシタ

次テ柳州ニ向ツテ進行ヲ繼續シマシタ

柳州飛行場ニ對シテハ東方並ニ南方地區カラ行動シマシタカ其ノ際

ニハ中文軍ノ一部デアアル第六聯隊ト第六十八聯隊カ柳州飛行場北方
及東方地區カラ進軍シテ來マシタノデ其後ノ軍隊ト協力シテ昭和十
九年十一月初旬ニ飛行場ヲ占領シマシタ其處ニハ五日バカリ滞在シ
折城マデ進ミ反轉シテ廣東ニ歸テ來マシタ。

私ノ部隊ハ只柳州飛行場ニ入タタケテ河ヲ阻ニテ柳州市營ニハ一兵
モ入城サセマセンデシタ

柳州飛行場ヲ占領ニ當ツテハ私ノ部隊ノ先遣一連大隊方僅カニ砲
ト兵火ヲ交ヘタダケテ殆ト戦闘ラシイ戰鬥ハナク簡單ニ飛行場ニ入
ルコトカ出來マシタ

四此ノ戰鬥間私ノ部隊ハ官司令官ノ示達タル「速クナ、殺スナ、孫メ
ルナ」ノ三事項ヲ遵守シ愛民ノ主旨ニ徹シ後方地區ノ宣撫並ニ治安
ノ確保ニ重點ヲ置キ行動ヲシマシタ
敵軍ハ一般住民ニ指示シテ戰場ノ清室空野ノ戰法ヲ強行シマシタカ
ラ至ル處一般住民ハ逃避シテ全ク居リマセンデシタカ日本軍ノ軍紀
嚴正テ住民ヲ害ヲ加ヘザルノミナラズ住民ヲ愛撫スルコトガ次第ニ

判ツテ來ルニツレテ段々ト歸來シ其ノ職業ニ從事スル様ニナツテ來マ
シタ。
私ノ師團ノ兵ハ軍紀嚴正テ住民ヲ殺シタリ住民ヲ燒イタリシタコトハ
一回モ無カツタコトヲ斷言致シマス。

昭和二十二年（一九四七年） 月 日 於

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコト

ヲ證明シマス

同日於

供証者 鈴木貞次

立會人 堀内兵吾

宣
誓
書

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加
セザルコトヲ誓フ

署名捺印

鈴木貞次

65